

奄美大島の未来を考える

小笠原世界自然遺産に学ぶ

世界自然遺産 講演会

参加費
無料

日時 2019年4月21日(日) 13:30-17:00

基調講演

『小笠原諸島世界自然遺産の事例に学ぶ』

深澤 丞 氏

小笠原自然観察指導員連絡会会長

小笠原諸島父島在住。1993年にガイドを始めた小笠原のベテランガイド。陸域から海域まで全般をカバーし、人と自然にわかりやすいガイドをモットーとする。宿泊も含めた自然体験ツアーをプロデュースしている。

話題提供

『日本自然保護協会が世界自然遺産に期待すること』

安部真理子

公益財団法人日本自然保護協会

琉球大学大学院にてサンゴの生物学に関する研究で博士号(理学)を取得。

日本自然保護協会では2010年4月より沖縄や奄美のサンゴ礁の問題や日本の沿岸管理などについて担当している。

会場 瀬戸内町立図書館 2階・視聴覚室

(鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋1283-17)

主催 公益財団法人日本自然保護協会
共催 小笠原世界遺産に学ぶ瀬戸内町民講演実行委員会
後援 南海日日新聞社、奄美新聞社

お問い合わせは
日本自然保護協会 保護室

TEL : 03-3553-4101

メール : umi@nacsj.or.jp

URL : <https://www.nacsj.or.jp/>

小笠原に学ぶ「世界自然遺産講演会」

今年2月、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」が世界自然遺産への登録を目指して推薦されました。昨年のIUCN（世界自然保護連合）による延期勧告と、それを受けた推薦の取り下げ、再検討を経た、再挑戦です。

世界遺産への登録は、世界的に貴重な自然を次世代に残す取り組みです。日本ではすでに、知床・白神山地・小笠原諸島・屋久島が自然遺産に登録されていますが、登録後、国内外からの観光客の増加や知名度の向上などによる効果もたらされた反面、自然資源のオーバーユース（使いすぎ）や外来種の侵入などの問題も起きています。

そこで、2011年に世界自然遺産に登録された小笠原諸島から講師をお招きし、世界自然遺産登録の前後で、島の様子や観光客がどう変わったか、島の方々はどんな対応を行ったか、苦労したこと、工夫したことなどについて、島民の視点からのお話しをお聞きしたいと思います。小笠原の島民の取り組みは、IUCNからも高く評価されました。近い将来、奄美でどんな変化が起こりそうか、みなさまと一緒に考える場としたいと思います。



講演者紹介 基調講演 深澤 丞 氏

1993年にガイドを始めた小笠原のベテランガイド。小笠原諸島父島在住。陸域から海域まで全般をカバーし、人と自然にわかりやすいガイドをモットーとする。宿泊も含めた自然体験ツアーをプロデュースしている。
日本自然保護協会自然観察指導員
スノーケリングインストラクター、キャンプインストラクター

世界遺産 小笠原諸島

東京から約1,000km南に位置する30余り島々から成り立つ海洋島。一般住民が住むのは父島と母島の2島で、2,505人が暮らしています（平成27年度現在）。空港がなく、6日間に1便運航している貨客船「おがさわら丸」が唯一の交通手段です。2011年に世界自然遺産に登録され、2012年には登録前と比べて2倍余りの約4万人が訪れました。現在は年間約3万人が訪れて、小笠原の自然や文化を楽しんでいます。



プログラム

挨拶

公益財団法人日本自然保護協会
自然保護室長 辻村千尋

小笠原世界遺産に学ぶ瀬戸内町民講演実行委員会委員長/
瀬戸内町議会議員 澤 佳男

話題提供

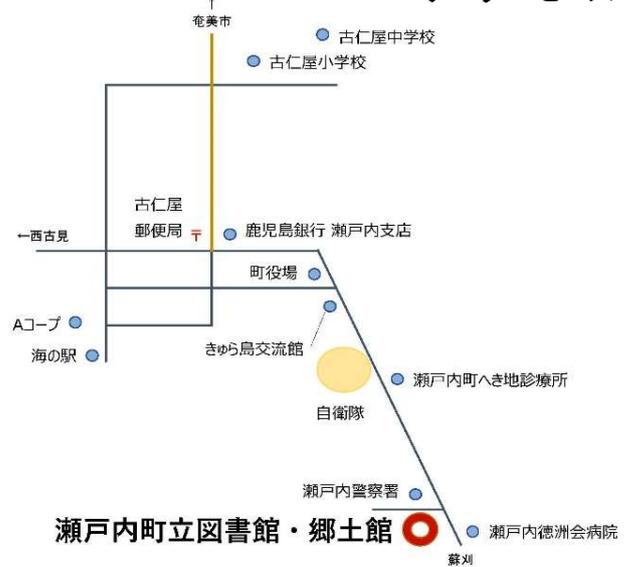
『日本自然保護協会が世界自然遺産に期待すること』
公益財団法人日本自然保護協会 安部真理子

基調講演

『小笠原諸島世界自然遺産の事例に学ぶ』
小笠原自然観察指導員連絡会会長 深澤 丞

質疑応答・会場との意見交換

アクセス



瀬戸内町立図書館・郷土館 ホール
住所 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋1283-17
電話 0997-72-3799
駐車場 有り